

## 日本小児泌尿器科学会（2024年）学会賞 臨床部門

### 精索捻転症における用手整復の成功率と予測因子の解析



石塚 悦昭（東京都立小児総合医療センター 泌尿器科）

この度は、第33回日本小児泌尿器科学会総会・学術集会におきまして、学会賞を賜り大変光栄に存じます。このような名誉ある賞を賜りましたのも、東京都立小児総合医療センター泌尿器科・臓器移植科の佐藤裕之先生をはじめ、臨床の場における多くの関係の方々のご指導とご協力のおかげであり、心より感謝申し上げます。

これまでも急性期の精索捻転症に対する用手整復の有用性は報告されてきましたが、必ずしも用手整復が成功するとは限らず、用手整復の成功率や成功の要因は明らかとされてきませんでした。そのため当センターのERを受診した精索捻転症患者のうち、用手整復を試みた症例について用手整復の成功率と成功の予測因子を解析しました。その結果、発症からの時間と成功率に関連を認め、発症から6時間未満では用手整復の成功率が81.8%あり、発症から6時間以降と比較して有意に差があることが示されました。

EAUのガイドラインでは急性期の精索捻転症に対し、無麻酔で用手整復を行うことを推奨していますが、遵守状況を調べたアンケート調査では回答者の38%しか用手整復を試みていないことが報告されています。

今回の結果が臨床の場で診療の役に立たれるよう、今後もさらに努力を重ねていきたいと存じます。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。